



颯爽と世に出た初代市川團十郎の江戸歌舞伎。その発展とともに磨かれてきた付けの技術。江戸の芝居町の情緒を今に残す付けの音色は、歌舞伎の“音”そのものだった。近代の歌舞伎大劇場でも、舞台と客席とを一体にさせるその役割は同じ。ピンと張り詰めた一瞬の間合いとその空気感。観客と一体感を感じさせる付けの音は、歌舞伎独特の演出効果となっている。今の役者が演じる歌舞伎は、今の時代を生きる歌舞伎であり、今日この日この瞬間にしか見ることが出来ない「生きた舞台」。今も生き続ける歌舞伎の音、そして付け打ちから見た現在の歌舞伎とは。

やまさき とおる

1969年 倉敷市生まれ。株式会社パシフィックアートセンター 劇場統括本部・付け打ちグループリーダー。2002年8月に、付け打ち初の専門職グループ「付け打ち委員会」を社内に立上げ、付け打ちから見た平成のいまの歌舞伎の楽しさを伝える為に、レクチャー・ワークショップに参加。歌舞伎公演では、主に平成中村座・渋谷コウケン歌舞伎・坂東玉三郎・中村勘三郎公演を中心に担当している。

■お申し込みはHP またはお電話にて承ります。(参加費無料・予約制・定員になり次第受付を終了させていただきます)

TEL: 03-5411-2363

URL: <http://www.d-laboweb.jp/event/>

■東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー7F

営業時間: 月～金曜日 11:00～19:00

土・日・祝日(年末年始を除く) 10:00～18:00

d-labo stream laboratory by SURUGA bank